

成果と課題及び指導改善のポイント

小学校算数（小学4年生、小学5年生、小学6年生）

小学4年生で成果が見られた設問(◇)と課題が見られた設問(◆)及び出題の趣旨

- ◇ 切り上げて見積もった結果から分かることを判断することができる 設問1(3)
- ◇ 二次元の表の合計欄に入る数を求めることができる 設問3(3)
- ◆ グラフから読み取ったことを根拠に、示された事柄が正しくない理由を説明することができる 設問3(2)
- ◆ 問題場面の数量の関係に着目し、余っているゴムひもの長さを求める式を判断することができる 設問5(3)

小学5年生で成果が見られた設問(◇)と課題が見られた設問(◆)及び出題の趣旨

- ◇ 示された考えを解釈し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方を考えることができる 設問1(2)
- ◇ 混み具合を求めるために必要な量を理解している 設問5(4)
- ◆ m^3 で表された体積を cm^3 で表すことができる 設問5(2)
- ◆ グラフから読み取ったことを根拠に、示された考えが正しい理由を説明することができる 設問5(6)

小学6年生で成果が見られた設問(◇)と課題が見られた設問(◆)及び出題の趣旨

- ◇ 2つのミルクコーヒーのコーヒーとミルクの比が等しい理由を説明することができる 設問2(3)
- ◇ 基準量と比較量の関係を表している図を判断することができる 設問3(1)
- ◆ 問題場面と数直線に関連付けながら、二つの数量の関係を捉え、式に表すことができる 設問5(2)
- ◆ 除法に関して成り立つ性質に着目し、示された分数の除法の計算が正しくない理由を説明することができる 設問5(3)

小学校算数の課題に対応した指導改善のポイント（☑してきましょう。）

■数量の関係を捉えて立式する設問、根拠を明らかにして自分の考えを説明する設問、既習事項を基に考えたり判断したりする設問に課題が見られました。これらの課題を解決するために、「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえて、授業を改善することが大切です。

□示された情報を言葉や図に整理し、数量の関係を的確に捉えて立式するような活動を設定している。また、立式の根拠を示しながら説明する活動を設定している。

□誤りのある考えや根拠が不足している説明を生かして、誤りや不足しているものについて話し合ったり、適切な根拠を示しながら説明したりするような活動を設定している。

□問題解決に取り組む場面で、既習事項との共通点を見いだしながら解決の見通しをもつような活動を設定している。また、学習を振り返る場面で、既習事項と関連付けながら学習内容をまとめるような活動を設定している。



正答表とセットになった「指導改善のポイントが分かる資料」も、併せてご覧ください。

集計結果 ※「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準	到達状況
県	6,530	52.0	5.5	54.7	▼

※ 県の結果には、「未習：1なし」かつ「集計対象：1対象」で入力された児童生徒の調査結果が反映されています。

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数 (問)	正答率		無解答率		到達基準	到達状況
			県	県	県	県		
学習指導要領の 内容・領域等	数と計算	8	48.5	6.6	51.3	▼		
	図形	3	42.6	10.2	50.0	▼		
	測定・変化と関係	5	54.6	4.0	62.0	▼		
	データの活用	2	51.7	4.1	50.0			
評価の観点	知識・技能	6	70.0	2.0	68.3			
	思考・判断・表現	9	40.0	7.9	45.6	▼		
問題形式	選択式	4	60.4	3.2	62.5	▼		
	短答式	7	61.4	2.5	60.0			
	記述式	4	27.1	13.3	37.5	▼		

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の 内容・領域等				評価の観点	問題形式	正答率 県	無解答率 県	期待正答率	課題が見られる設問
		数と計算	図形	測定・変化と関係	データの活用						
1	(1) 数量の関係を捉え、基準量を求めることができる			○		○	44.2	0.4	50	○	
1	(2) 四捨五入について理解している	○				○	81.6	0.6	70		
1	(3) 切り上げて見積もった結果から分かることを判断することができる	○				○	72.7	0.8	60		
2	(1) 適切な重さの単位について理解している			○		○	74.0	0.5	70		
2	(2) mで表された長さをcmで表すことができる	○	○			○	46.0	1.5	70	○	
2	(3) 単位の関係に着目し、1kgや1kmのように、1gや1mの単位の前にk(キロ)が付くと、1000倍になることを説明することができる			○		○	25.6	15.4	50	○	
3	(1) 画用紙はしおりを横と縦に何個ずつ敷きつめられるかを考えて、1枚の画用紙からできるしおりの枚数を求めることができる	○	○			○	46.8	4.0	50	○	
3	(2) グラフから読み取ったことを根拠に、示された事柄が正しくない理由を説明することができる			○		○	30.0	5.0	40	○	
3	(3) 二次元の表の合計欄に入る数を求めることができる			○		○	73.4	3.1	60		
4	(1) 条件に合う時刻を求めることができる			○		○	83.0	2.5	70		
4	(2) 計算を簡単に行う工夫をすることができる	○				○	54.9	5.1	50		
4	(3) 示された考えを解釈して余りの処理を行い、1000円で30個のいちごが買えないことを説明することができる	○				○	34.0	9.8	30		
5	(1) 台形の特徴について理解している			○		○	62.0	3.6	70	○	
5	(2) 平行四辺形の辺の長さに着目し、長方形の布からマスクを何個作ることができるかを説明することができる	○	○			○	19.0	23.1	30	○	
5	(3) 問題場面の数量の関係に着目し、余っているゴムひもの長さを求める式を判断することができる	○				○	33.0	7.8	50	○	

集計結果 ※「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準	到達状況
県	6,807	50.1	3.6	52.7	▼

※ 県の結果には、「未習：1なし」かつ「集計対象：1対象」で入力された児童生徒の調査結果が反映されています。

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数 (問)	正答率		無解答率		到達基準	到達状況
			県	県	県	県		
学習指導要領の 内容・領域等	数と計算	3	48.1	2.8	50.0	▼		
	図形	4	35.8	1.6	52.5	▼		
	測定・変化と関係	4	57.8	5.0	50.0			
	データの活用	4	58.3	4.6	57.5			
評価の観点	知識・技能	8	57.1	2.6	60.0	▼		
	思考・判断・表現	7	42.2	4.7	44.3	▼		
問題形式	選択式	5	52.3	1.3	62.0	▼		
	短答式	5	68.5	3.5	56.0			
	記述式	5	29.6	5.9	40.0	▼		

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の 内容・領域等				評価の観点	問題形式	正答率		無解答率		期待正答率	課題が見られる設問
		数と計算	図形	測定・変化と関係	データの活用			県	県	県	県		
1	(1)	面積の求め方について理解している	○			○	○	29.8	0.5	70	○		
1	(2)	示された考えを解釈し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方を考えることができる	○			○	○	72.7	1.2	50			
2	(1)	数直線を基に、正時を区切りとした時間の求め方について考察し、式に示された数の意味を説明することができる		○		○	○	54.1	8.3	50			
2	(2)	示された情報を基に、条件に合う時間を考えることができる		○		○	○	74.6	2.3	60			
3		乗数が1より小さい場合、積が被乗数より小さくなることを考えることができる	○			○	○	35.6	4.2	40	○		
4	(1)	小数の仕組みを理解している	○			○	○	47.3	1.1	60	○		
4	(2)	棒グラフから項目間の関係を読み取ることができる		○		○	○	81.4	1.0	70			
4	(3)	伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要なペットボトルキャップの重さの求め方を説明することができる		○		○	○	28.2	7.3	30	○		
4	(4)	二つの観点から分類整理した表を理解している		○		○	○	70.3	2.5	60			
5	(1)	体積の関係に着目し、示された考えが正しくない理由を説明することができる	○			○	○	12.0	3.0	40	○		
5	(2)	m ³ で表された体積をcm ³ で表すことができる	○			○	○	28.6	1.9	50	○		
5	(3)	小数で表された基準量と比較量を捉え、その割合を求めることができる	○			○	○	61.5	3.2	50			
5	(4)	混み具合を求めるために必要な量を理解している		○		○	○	74.3	2.2	60			
5	(5)	平均の求め方を理解している		○		○	○	63.2	8.3	60			
5	(6)	グラフから読み取ったことを根拠に、示された考えが正しい理由を説明することができる		○		○	○	18.0	6.6	40	○		

集計結果 ※「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準	到達状況
県	6,795	53.8	4.0	51.3	

※ 県の結果には、「未習：1なし」かつ「集計対象：1対象」で入力された児童生徒の調査結果が反映されています。

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数 (問)	正答率		無解答率		到達基準	到達状況
			県	県	県	県		
学習指導要領の 内容・領域等	数と計算	5	45.5	5.8	54.0	▼		
	図形	4	65.3	2.9	55.0			
	変化と関係	5	51.6	3.5	44.0			
	データの活用	2	52.0	4.7	45.0			
評価の観点	知識・技能	7	56.0	1.9	58.6	▼		
	思考・判断・表現	8	51.9	5.8	45.0			
問題形式	選択式	3	58.5	1.2	56.7			
	短答式	7	55.7	2.0	54.3			
	記述式	5	48.5	8.4	44.0			

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の 内容・領域等				評価の観点 知識・技能	問題形式 選択式 短答式 記述式	正答率		無解答率		期待正答率	課題が見られる設問
		数と計算	図形	変化と関係	データの活用			県	県	県	県		
1	(1)	点対称な図形を理解している	○			○	○	65.2		0.1	60		
1	(2)	示された情報を基に、あと1つ同じ大きさの正方形をつなげて、線対称になる図形を考え、対称の軸を見いだすことができる	○			○	○	55.4		3.1	40		
1	(3)	線対称な図形について、対称の軸の数に着目し、どのように二つに分けているのかを説明することができる	○			○	○	48.2		7.5	50	○	
2	(1)	割合を求めることができる		○		○	○	35.4		4.1	50	○	
2	(2)	示された情報から数量の関係を捉え、基準量と比を基に比較量を求めることができる		○		○	○	44.9		0.6	50	○	
2	(3)	2つのミルクコーヒーのコーヒーとミルクの比が等しい理由を説明することができる		○		○	○	62.1		4.3	40		
3	(1)	基準量と比較量の関係を表している図を判断することができる		○		○	○	72.7		0.6	50		
3	(2)	目的に応じた買い方を考え、代金を求めることができる	○			○	○	71.6		1.3	60		
3	(3)	問題場面の数量に着目し、文字を用いた式が表す意味を読み取ることができる	○			○	○	61.5		7.9	50		
4	(1)	長方形の面積の公式を理解し、面積と縦の長さから、横の長さを求めることができる		○		○	○	92.3		0.9	70		
4	(2)	示された情報を基に、5年2組と6年1組で「チューリップが好き」と答えた人数の割合が異なることを説明することができる		○	○		○	43.1		7.8	30		
4	(3)	平均を求めることができる			○		○	60.9		1.5	60		
5	(1)	分数の乗法や除法において、乗数と積、除数と商のそれぞれの大きさの関係について理解している	○			○	○	37.5		2.8	60	○	
5	(2)	問題場面と数直線を関連付けながら、二つの数量の関係を捉え、式に表すことができる	○			○	○	29.0		2.7	50	○	
5	(3)	除法に関して成り立つ性質に着目し、示された分数の除法の計算が正しくない理由を説明することができる	○			○	○	27.7		14.4	50	○	